学番	中等２	新潟県立柏崎翔洋中等教育学校

令和７年度　　学校自己評価表（報告）

学　校　運　営　実　施　報　告	
学校運営方針	豊かな人間性と創造力を身に付け、主体的に学び、国際的な視野をもつ社会や地域のリーダーを目指す生徒を育成する。 そのために、明るく、たくましい進学校として、次に掲げる資質を育む。 (1)　自立して生きるための基礎となる学力 (2)　他者と協力して生きるための豊かな心 (3)　自己実現のために必要な気力及び体力
三つの方針（スクール・ポリシー）	
育成を目指す資質・能力に関する方針 （グラデュエーション・ポリシー）	①大学進学希望達成に向け、自主的・積極的な学習態度を育成します。 ②６学年の異学年集団による体験活動により、豊かな社会性、人間性を育成します。 ③社会規範を守り、他者を尊重するとともに、自己を律する態度を育成します。 ④目標の実現に向けて、あきらめずに挑戦する力を育成します。 ⑤国際的な視野に立ち、持続可能な社会の発展に貢献できる力を育成します。
教育課程の編成及び実施に関する方針 （カリキュラム・ポリシー）	①少人数授業や授業内確認テストを行うとともに、確かな学力の定着を図る学習到達度テスト、学習合宿を行います。 ②各教科学習において、計画的・体系的な６年間の学びを進めます。 ③ＩＣＴを活用しながら、学年ごとの家庭学習課題を設定し、きめ細かな学習指導を行います。 ④ＬＦＥ活動や生徒会活動など、異年齢による体験活動に取り組みます。 ⑤「かしわざき学」や海外研修等をとおして、一貫したキャリア教育を展開します。
入学者の受入れに関する方針 （アドミッション・ポリシー）	①主体的に学ぶ姿勢を大切にし、粘り強くひたむきに学びに向かう児童。 ②他者を思いやり、仲間とともに切磋琢磨する児童。 ③高い規範意識を持ち、集団のけん引役となることを目指す児童。 ④自らの目標や夢の実現に向けて挑戦する児童。 ⑤幅広い視野に立ち、多様な価値観を尊重する児童。

昨年度の成果と課題	年度の重点目標	具体的目標〈つけたい力〉
○　「ロイロノート」やGoogleの各種ツールを利用させることで、生徒が一人一台端末を活用し、生徒の深い学びと個別指導の充実につながった。 ○　進路指導において、学年団を中心に丁寧な個別指導を行った。６年生は進路目標にむけて丁寧な個別指導を行うことで、最後まで粘り強く挑戦し続けた。国公立大学合格者は、東北大学１名、筑波大学１名などを含め、計20名であった。さらに防衛大学校にも１名が合格、進学した。 ○　いじめの早期発見を心がけ、丁寧かつ組織的に対応することができた。また、未然防止、見逃しゼロに向けて、運営委員会、生徒指導部会等で生徒の情報共有を行った。さらに、生徒会風紀委員による未然防止に向けた全校集会を実施し、いじめ防止に関する啓発活動を行った。今後は、保護者と連携したいじめ未然防止活動にも取り組んでいく。 ○　部活動等において、参加生徒は個々に目標をもって、ひたむきに日々の活動に取り組んだ。特設水泳部は、全国大会に出場し、上位に入賞した。	学力の伸長及びキャリア教育の充実 （中高一貫教育を活かし、優れた専門性の基礎づくり）	学ぶ目的や働く意義の理解を通し、自分の将来に目標をもち、主体的に学ぶ力を育成する。 〈キャリアプランニング能力〉
	全員の希望進路の実現に向けた確かな学力の定着	自分の希望進路の実現を見据え、課題を見つけ、分析し、計画を立てて解決する力を育成する。 〈課題対応能力〉
	公共心・規範意識の育成及び人権教育の充実 （高い倫理性の基礎づくり）	自分の役割を理解し、他者と協力して、積極的によりよい集団や社会を形成しようとする力を育成する。 〈人間関係形成・社会形成能力〉
	心身鍛練及び健康管理の充実（自己実現に必要な気力・体力づくり）	自分の個性や特徴を理解し、向上心をもって主体的に行動する力や、自分の考えや感情を律し、あきらめずに努力する力を育成する。 〈自己理解・自己管理能力〉

○ 地域探究学習「かしわざき学」の取組では、地域防災や社会問題解決などについて自ら課題を設定し、地元の有識者から協力いただきながら学びを深めた。また、県内中等教育学校をオンラインでつなぎ、他校の生徒に活動内容を発表し、意見交換を行った。 ＬＦＥ活動においては、後期生がリーダーシップを発揮し、異学年交流を深めた。	故郷への愛着・共生、気づき・かかわる力の向上（共に生きる社会参画への基礎づくり、自己肯定感の向上）	「かしわざき学」などの地域との交流や校外活動をとおして、社会や母校に貢献しようとする意欲を高める。 〈地域連携・社会貢献〉

重点目標	具体的目標		具体的方策	評価	
1　学力の伸長及びキャリア教育の充実	教務部	・６年間を見通して、「総合的な学習（探究）の時間」において系統的な指導を行う。 ・より良い年間行事計画を提案する。	・各学年の「総合的な学習（探究）の時間」の計画において、生徒の将来像を意識した行事、活動計画を立案する。 ・式典等の実施計画や実施後の総括をもとに、改善や見直しを行う。	A	A
	生徒指導部	・生徒会行事に主体的に参加することを通して、社会に積極的に関わろうとする意識を育て、将来の目標を見定めて行動できるようにする。	・体育祭、文化祭、球技大会など各種行事において、責任を持って委員会や係の仕事を行うことで、全体のために働くことを学ばせる。	A	
	進路指導部	・６年間を見通した進路指導計画のもと、進路学習や進路講演会などを実施し、生徒が将来のビジョンを持てるようにする。 ・学習習慣を定着させ、学力の伸長を図る。	・キャリア形成に関する指導を発達段階に応じて計画的に行う。 ・学年部と連携して、学習時間の少ない生徒の指導などを行う。	A	
	１学年	・望ましい職業観、勤労観の育成し、自己の生き方を創造する力の育成 ・基本的生活習慣の確立と学習習慣の確立 ・主体的に学ぶ力・豊かにかかわり合って学び合う力の育成	・身近な働く人調べなど家庭と連携した学習を行う。 ・「地域調べ」「職場見学」など地域に根ざした体験活動を実施する。 ・自分の生活を管理と規則正しい生活についての指導を継続して行う。（生活ノート、休日指導） ・短学活、学級活動の時間を通して、学び方、学び合い学習を実施する。 ・関わり合い学習を積極的に取り入れる。	A	
	２学年	・自分の生き方とかかわらせながら学ぶ意味を見出し、主体的に学ぼうとする態度の育成。 ・日常の家庭学習の習慣を身に付け、学力の定着を図る。	・学んだことを通して、生徒が自己の生き方を考えられるような活動を仕組む。 ・自己の生活を管理し、規則正しい生活の在り方を考えさせる。 ・主体的にかかわり、学び合う場を設定する。 ・望ましい職業観、勤労観について考えを深める活動と振り返りを行う。	A	
	３学年	・SAT に向けて基本的生活習慣、学習習慣の確立を図る。 ・学ぶことや働くことの意義を考え、自己の興味・関心と結びつけ、明確な将来像を描かせる。	・「学習時間調査などの各種調査」を活用して、生活・学習状況をチェックする。 ・「大学調べ」を実施し、進路実現に向けての意識付けを行う。 ・「立志式」をきっかけに、自分を見つめ、現段階での将来像や夢を具体的に考えさせる。	A	
	４学年	・基本的生活習慣,、学習習慣を確立する。 ・進路や文理選択に関する講演会等を通して、自己の将来について具体的に考える。 ・自己理解を深め、目標達成のために主体的に学ぶ力を身に付ける。	・毎週の学習課題を提示する中で、課題の意義や成果を自覚させる声掛けを行う。 ・講演会等は生徒の意識を啓発する内容となるように計画し、実施する。講演会実施後に教員が内容等について評価する。	A	
	５学年	・基本的生活習慣・学習習慣を確立させる。 ・オープンキャンパスへの参加を通し、職業観の育成や、卒業後の進路目標の明確化を図る。	・個別面談などを通し、生活習慣・学習習慣が確立しているか、注意する。 ・オープンキャンパス参加前に大学調べなどを行い、大学に関する知識を今まで以上に増やす。	A	
	６学年	・将来のキャリアを踏まえて、主体的に学習に取り組む態度を育成する。 ・家庭学習時間の目標達成率 50%以上。 ・課題提出率 90%以上。 ・進路を明確にさせ、志望校・志望分野を決定する。	・LHR での指導や学年だよりなどを活用してキャリアや学習に関する情報提供を行い、学習意欲を高める。 ・課題チェックし、未提出の者に提出を呼びかける。 ・面談を通じ、学習時間の不足している生徒には、アドバイスをし、より充実した学習が行えるよう励ます。 ・進路講演会などを保護者、生徒を対象に開催する。	A	
	国語科	・小テストの合格率が 80%以上となる。 ・課題の提出率が 90%以上となる。	・小テストでは、漢字・古文単語・古文文法・漢文句形を中心に基礎学力の定着を目指す。 ・再テスト等を実施し、全生徒の基礎学力の定着を目指す。 ・演習問題を中心とした課題を提示し、読解力をつけさせる。	B	
	社会科	・生徒一人ひとりの授業への関心・意欲を高め、学ぶ目的を認識させ、主体的に学べるようにする。	・「指示・発問の明確化」に努め生徒の理解や関心を高めるようにする。 ・生徒の理解が捗るように配色・ノートを意識した板書を行う。	B	
	数学科	授業内テストの合格率が前期は 80%以上、後期は 60%以上となる。	授業内テストでは事後指導を行い、確かな学力の定着を図る。	B	
	理科	学習意欲を向上させるような授業展開を行うことにより、理科に興味・関心をもつ生徒を増やし、理解しやすくわかりやすい授業を行う。	・実験や観察などの直接体験を取り入れた授業を展開し、思考力、推察力を高め、学習意欲の向上に繋げる。 ・理解しやすくわかりやすい授業のために、実物やモデルなどの教具、ICT 機器を活用する。	A	
	英語科	授業を大切にし、楽しくかつ充実した内容になるように計画する。	授業内テストや各種課題を、生徒の実態に合わせて作成する。	A	
	保健体育科	自分の健康や体力に関心を持ち、その増進や向上を目指して意欲的に学ぶ態度を育てる。	・体力テストの結果をもとに、各自の課題を把握させる。 ・学習内容が、健康の増進や体力の向上にどのように関連しているかを説明しながら授業を進める。	A	

重点目標	具体的目標		具体的方策	評価	
2 全員の希望進路の実現に向けた確かな学力の定着	教務部	・より良い年間行事計画を提案する。 ・学習計画や学習状況を見直せるようにし、学習の習慣化を図る。	年間行事計画の作成時に、各分掌の行事・部活動の大会等を考慮し、考査間隔を平均化できるよう提案する。	A	B
	生徒指導部	・進路希望実現のための課題を生徒に見つけさせた上で、適切な助言を与える教育相談を充実させる。	・年２回以上の教育相談アンケートを実施し、それに基づいた教育相談を行い、学校生活の充実と進路希望の実現のために適切な支援を行う。	A	
	進路指導部	・進路希望調査を実施し、調査結果を基に適切な進路指導を行う。 ・模擬試験を実施し、生徒の学力向上に繋げる。	・進路希望調査や模試の結果などを参考にし、生徒と個別面談の資料にしてもらう。 ・模擬試験の結果から、弱点の補強を各教科に働きかける。	B	
	１学年	・日々の学習計画を立て、計画的に家庭学習を行わせ、課題提出率 100%を目指す。 ・定期考査に向けて学習計画を立て、計画的に学習を進めさせ、目標の達成を図る。 ・定期考査の復習にしっかりと取り組ませ、既習内容を定着させる。	・短学活で時間の使い方や目標を具体的に指導する。 ・毎日の家庭学習の計画をその日の終学活や教育相談で行う。(助言を行う) ・定期考査前の学習計画と考査後の復習についての指導を十分に行うとともに、点検もしっかりと行う。	A	
	２学年	・自分の将来を見据えながら未来を切り拓こうとする生徒の意欲を喚起する。 ・具体的な自分の進路希望を実現するため、各種考査で安定した結果を収めさせる。 ・学力の定着を図るための家庭学習の習慣化させる。（平日２時間、休日３時間）	・考査２週間前から家庭学習計画表を配付し、計画的に学習できるようにする。学びの意味を考える指導を継続する。 ・課題提出率 100%を目指し、家庭学習を定着させる。 ・課題提出の滞ってしまう生徒には、必要に応じて放課後や長期休業前に指導を行う。	A	
	３学年	・各教科の課題の提出が目的にならず、学力の定着の手段として取り組むことができるように働きかける。 ・SAC、SAT を通して、前期課程の学習内容を確実に定着させる。	・必要に応じ、課題解消のための放課後学習会を随時行う。 ・学年だよりを定期的に発行して学校の情報を家庭に提供するとともに面談・ＰＴＡ活動等を計画的に行う。	B	
	４学年	・「進研模試」の国数英総合で、偏差値 55 以上の生徒が２割、偏差値 50 以上の生徒が４割を超えるようにする。 ・進路意識をもたせ、自身の適性や志望を明確にして、希望をもって将来に向けた実践ができるようにする。	・教科担当と連携し、個々に応じて模試の事前・事後の指導を行う。 ・文理選択、進路について考える機会を設けるとともに、定期的に個人面談を実施し生徒の適性を踏まえた支援を行う。	A	
	５学年	・計画的に学習を行うよう指導する。また、日々の授業を大切にする意識を持たせ、集中して授業に臨むように促す。 ・平日３時間以上、休日５時間以上の家庭学習を習慣化させる。 ・進路講演会など、進路意識を啓発する講演会を実施する。	・担任と副任が連携して個別面談を行うなどして、希望の進路につながるように教育相談を実施する。 ・予習・復習が効果的になされるよう課題を課す。 ・進路講演会で、生徒に有用な情報を提供するとともに、進路に対しての意識を啓発する内容になるように計画する。	B	
	６学年	・大学入学共通テスト受験率 80%以上。 ・国公立大学合格率 30%以上。 ・難関大学・医学部医学科進学率５％以上。	・安易に志望を下げることがないよう、面談を通じ適切な指導をする。 ・補習や個人指導を充実させ、生徒の進路希望をかなえる。 ・受験機会を最大限に生かし、最後まで進路実現のための努力を継続させる。	A	
	国語科	・全国学力推移調査において、学年の平均偏差値が 47 以上になる。【前期課程】 ・進研模試において、学年の平均偏差値が 55 以上になる。【後期課程】	・学力推移調査や模擬試験後に、各授業で復習を行う。 ・日々の授業において予習・復習を促す。 ・読書習慣をつけさせる。	B	
	社会科	【前期課程】 ・３年生の 30%以上がＳＡＴ本試験・再試験に合格する。 【後期課程】 ・５年進研模試で偏差値 50 以上の生徒が 30%以上 ・大学共通テストで 60%以上得点した生徒が 50%以上(ただし、合格が決まっていない生徒)	・各テスト後の「振り返り」を確実に行わせ、理解できていない事項の定着をはかる。 ・学年に応じた進路指導を行い、進路指導部と連携してさまざまな情報を共有し、生徒に提供する。	B	
	数学科	前期は学力推移調査の平均点偏差値が 45 以上、後期は進研模試で 52 以上となる。	考査や模擬試験では、計画的な学習を促し、考査・試験後には振り返りを行う。	C	
	理科	・生徒の学習定着の状況をきめ細かく把握する。 ・基礎基本の定着を目指す反復学習を行う。	・振り返り学習や確認テストを実施し、躓きの早期発見を行う。 ・成績不振者には補習や基礎の反復学習を行う。	B	
	英語科	・ＮＲＴ平均点偏差値(全国)が 56 以上になる。【前期課程】 ・進研模試において、平均点偏差値(全国)が 52 以上になる。【後期課程】	・各種試験の事前指導、事後指導を行う。 ・Can-do リストを活かし、将来の望ましい姿を見据えた指導計画を立案し、実行する。 ・進路指導部と連携し、各種情報を最大限利用し、生徒に適切な指導を行う。	A	
	保健体育科	・自分の立てた目標を達成するために工夫して活動し、技能や体力を向上させる。	・練習内容や用具・場の工夫など、いくつかの練習方法を取り入れながら授業を進める。 ・単元によっては、自由練習の時間を設定し、個人やグループの課題に応じた練習を工夫させる。	A	

重点目標	具体的目標		具体的方策	評価	
3　公共心・規範意識の育成及び人権教育の充実	教務部	・ＬＦＥ活動を通して、他学年の生徒とも自分から関わろうとする気持ちを育む。 ・後期課程において人権教育に関する授業を実践する。	・ＬＦＥ活動において、親睦レクリエーションを実施し、親睦を深める。 ・人権教育の指導計画において、授業の質的向上を図るための手立てを記載する。	A	A
	生徒指導部	・明るく元気で爽やかな挨拶が自然に交わされる学校づくり。 ・小さなトラブルでもいじめに発展しないよう、常に情報収集と共有に努め、組織的に早期の問題解決を図る。 ・欠席しがちな生徒の情報を定期的に共有し、適切な支援を行う。	・自発的に自然な挨拶ができるよう、風紀委員会が中心になって「挨拶運動」を年３回以上行う。 ・学年、分掌など各部会で定期的に情報交換する。 ・いじめ・不登校対策委員会を中心とした支援体制を機能させる。各部と連携を取りながら個別支援計画を作成し、支援に当たる。	A	
	進路指導部	未来に夢や希望をもち、自らの人生や新しい社会を切り拓く力を身につけ、主体的に考え行動する資質・能力の育成を図る。	進路学習全体を通じて、自らの人生をどう生きるかを一人ひとりに考えさせる。	A	
	１学年	・自分から、誰にでも元気にあいさつができる。 ・相手の立場に立って考えることができる生徒、感謝の気持ちを育て、誰にでも優しくできる生徒を育成し、いじめや不登校のない集団づくりを行う。 ・集団の一員として各自の役割や仕事をしっかりと果たす姿勢や、仲間と積極的に関わり合い協力して諸活動に取り組める態度を育成する。	・「いつでも」「どこでも」「誰にでも」「自分から」あいさつできる風土を醸成するための声かけ・指導を行う。 ・月末に、いじめに関するアンケートを含め、学年部、教科担当に回覧して情報を共有し、複数の目で生徒を見とり、教育相談を適宜行う。 ・普段から生徒の見とりを十分に行い、生徒の表情の変化、人間関係の変化を見逃さないようにする。 ・家庭との連携をとるため、欠席時の家庭連絡を適宜行う。 ・学年委員会など、学年・学級の組織を動かし、自治的な活動を推進する。	B	
	２学年	・他人の心の痛みがわかる生徒、感謝の気持ちを持てる生徒を育成し、いじめや不登校のない集団づくりを行う。 ・集団の一員として各自の役割や仕事に責任を持って取り組む姿勢や、仲間と協力し合い自主的・主体的にかかわる態度を育成する。	・集団に貢献することの大切さを指導する。 ・仲間や集団の良い点を生徒に紹介することで、目指す姿を気付かせ、称賛の気持ちを拍手で表現させる。 ・様々な活動後の振り返りを通して自己の内省をさせるとともに、望ましい集団のあり方について考えさせる。	A	
	３学年	・主体性をもって、思いやりや感謝の気持ちで他に接し、共働する生徒を育成し、いじめや不登校のない集団づくりを行う。 ・集団の一員として各自の役割や仕事に責任をもって取り組む姿勢や、仲間と協力し合い自主的・主体的にかかわる態度を育成する。	・「学校生活アンケート」等を活用しながら教育相談を実施する。 ・週の振り返りを定期的に実施し、学年部で情報を共有する。 ・明るく元気なあいさつや返事、教室内の整理整頓、清掃活動を充実させ、生徒の公共心を培う。	A	
	４学年	・全員がいじめを許さない、見逃さない意識をもつ。 ・多様性に対する理解を身に付け、広い視野と寛容性をもってかかわることのできる態度を培う。 ・教室内の整理整頓・清掃活動の充実や生徒会活動・係活動を通して公共心を培う。	・学年部全員で生徒への指導や見取り等を継続して行い、いじめの防止や早期解決に努める。 ・ＬＨＲやＳＨＲの時間、人権の授業を実施し、多面的な見方や協働的な活動を充実する。 ・前期課程からの指導を継続し、日々の活動から学年部職員全員で指導にあたる。	A	
	５学年	・教育相談の充実を図り、いじめ及び不登校のない学年づくり、集団づくりに努める。 ・教室内の整理整頓、きちんとした清掃活動を通じ、生徒の公共心を養うよう指導する。	・毎日の生徒の様子に目を配り、教育相談を行う。また、いじめに関する生徒アンケートの結果も参考にしながら、面談等も実施していじめや早期発見につとめる。 ・清掃を徹底すると共に、清掃時間以外でも教室内の美化に努める。	A	
	６学年	・教育相談の充実を図り、いじめや不登校のない学年・学級づくりや集団づくりを行う。 ・挨拶や清掃をきちんと行うよう、日頃から細かく指導する。 ・人権教育を通じ、人権意識を高める。 ・行事に積極的に参加し、クラス意識、学年意識を高める。	・アンケートの結果を詳細に分析し、早めに面談を行う。 ・行事への積極的参加を促す。 ・今までに学んださまざまな人権教育を日常生活に活かし、どんな場面においても差別をすることのないように人権意識をさらに高める。	A	
	国語科	現代文、古文、漢文の各教材を通して、公共心と規範意識の向上を目指す。	意見発表やグループ討議など、生徒が自ら考えて活動する時間を設定し、生徒が表現活動において様々な価値観を踏まえて考えを深められるよう支援する。	A	
	社会科	授業を通し、公共心の育成を図るとともに、人権尊重の意識を高める。	授業で、公共心について考えさせるとともに、人権問題にも触れ、現代社会についての考察を深めるとともに、社会の構成員として、自己のあるべき姿について考えさせる。	B	
	数学科	他者と協力して問題を解決しようとする態度を育てる。	グループで問題解決への様々な過程を考えさせ、それらをクラスで共有する。	A	
	理科	授業を通じて自然愛護の精神を養い、公共心を育成する。	環境問題や生命尊重に関する内容や教材を取り扱う。	A	
	英語科	生徒が、お互いを尊重しながらペアワークやグループワークができるよう指導する。	授業中のペアワークやグループワークなどで、生徒同士が協力し合いながら活動する場面を取り入れる。	A	
	保健体育科	グループでの役割を果たしたり教え合い学習をしたりするなど、仲間と協力して活動する態度を育てる。	・グループ活動を取り入れ、協力し合う場を設定する。 ・仲間と協力しなければ成り立たない活動を取り入れる。	A	

重点目標	具体的目標		具体的方策	評価	
4 心身鍛練及び健康管理の充実	教務部	・チャレンジウォークで、生徒に達成感を持たせる。 ・チャレンジウォークを円滑に運営し、生徒の完歩率を向上させる。	・チャレンジウォークのコースについて、検討し、適切なコースづくりを行う。 ・事前準備やスタッフの打合せを綿密に行い、当日の業務に支障がないようにする。 ・生徒への事前指導を充実させる。	A	A
	生徒指導部	自己実現に向け、生活習慣の見直しを図り、生活リズムの確立とともに、健康管理能力をはじめとした自己管理能力を高める。	・生活記録等を活用し、自分に合った生活リズムが作れるよう指導する。 ・生活習慣の重要性を学ばせるために、発達段階に応じた保健講座を実施する。	A	
	1学年	・体力の向上の大切さと意義を理解させ、部活動などに積極的に参加させる。 ・自己の生活を見直す機会として保健講座を設け、健康的な生活に向けて自己管理できるようにする。 ・チャレンジ・ウォークの全員参加・完歩を目指す。	・部活動の意義と、具体的な活動と成果について複数回の指導を行う。 ・「保健」の授業と関連した内容で、健康と命に関する授業（講座）を設定する。 ・チャレンジウォークにおいて、各自・学級での目標設定し、協力して目標を達成できるような働きかけを行う。 ・スキー、マリンスポーツの地域スポーツを実施する。	A	
	2学年	・自分の心身の健康管理を確実に行い、欠席や遅刻、早退をしないようにようにさせる。 ・集団の一員としての自覚と役割を理解させ、自他の違いを尊重する態度を育成する。	・保健講座を通して、自己管理への啓発を行う。 ・欠席や遅刻、早退の多い生徒に対して教育相談を行うとともに、その保護者と連携して改善を図る。 ・チャレンジウォークで、全員完歩を目指す。	A	
	3学年	自分の生活を定期的に振り返り、食事や余暇の過ごし方と自分の体力を照らし合わせて、常に主体的に修正できる力を付ける。	・チャレンジウォークで「全員一斉の完歩とゴール」を目指す。そのための意識を高める。 ・食育、運動などの直接振り返る機会を定期的に設ける。	A	
	4学年	・知・徳・体のバランスのとれた生徒を育成する。 ・たくましい心身、あきらめない心をもって自己の健康管理を習慣化する。	・学校生活全体をとおして、健康管理の習慣化を促す。 ・チャレンジウォークに向けて、体力づくりの指導や励ましを継続し、完歩への意識付けを図る。	A	
	5学年	知、徳、体のバランスがとれた生徒に成長するよう、指導する。	・欠席、遅刻、早退等が少なくなるように気を配る。欠席がちな生徒には教育相談を実施するなどして対応する。 ・部活動に加入している生徒には、文武両道の実現に向け声がけをし、奨励していく。	A	
	6学年	・欠席・遅刻・早退等がない学年・学級づくりを行う。 ・知、徳、体のバランスがとれた生徒に成長するよう指導する。	・気になる生徒への対応（質問や面談）を速やかに行う。 ・定期的に面談を行い、生徒の精神面のサポートを行う。 ・チャレンジウォークや体育祭など体育的な活動へ積極的に参加する。	A	
	国語科	様々な教材を通して多様な考えや価値観に触れさせ、人間を理解する。	現代文分野、古典分野の教材を通して「人間とは何か」を考えさせ、自己や他人を理解する力を身につけさせる。	A	
	社会科	課題を欠かさず提出させる。	原則として毎週各学年ともに課題を課し、毎週期日を守り提出することを徹底させ、自己管理能力や規律性を身に付けさせる。	A	
	数学科	・課題の提出率が90%以上となる。 ・自主課題を設定させる。	考査の振り返りを行い、自己分析から弱点を知り、自らの課題を考えさせる。	A	
	理科	学習習慣をつけるために、各学年の発達段階に応じた課題を設定し、締め切りを守って提出させる。	・学習内容に応じた課題を課し、期日を守り提出することを徹底させ、粘り強くとりくむ力を養う。 ・課題提出状況を一覧にし、自己管理能力を身につけさせる。	A	
	英語科	家庭学習の習慣を身につけさせ、自ら進んで学習に取り組むよう指導する。	Challenge Now!を活用して、計画的に家庭学習に取り組ませる。	A	
	保健体育科	継続した運動の効果を理解し、毎時間のウォーミングアップで定められた距離を走り通す態度を育てる。	・ウォーミングアップの重要性や、継続することの効果を繰り返し指導する。 ・しっかり走っている生徒を称賛したり、そうでない生徒を激励したりと、声掛けをする。	A	

重点目標	具体的目標		具体的方策	評価	
5　故郷への愛着・共生、気づき・かかわる力の向上	教務部	生徒が「かしわざき学」において、地域に関心をもち、設定した課題と探究活動の支援をする。	・「かしわざき学」において、「地域探究」をテーマとした成果を発表させる。 ・主体的に探究活動を行う。	A	A
	生徒指導部	学校行事等を通して、学校の取組を地域の人々に発信し、地域への関わりを深める。	・文化祭などの学校行事において、地域の人が参加したり、学校活動を紹介したりする機会を設け、学校に対して関心を持ってもらう。 ・生徒会交歓会や校外育成活動を通して、他校の生徒と交流し、連携してよりよい地域づくりについて考える機会を設ける。	A	
	進路指導部	地域と交流しながら学びを進める中で、地域の課題に積極的に取り組みその解決を目指す意識を高める。	進路学習全体を通じて、地域と学ぶ学習活動を通じて適切に行う。	A	
	１学年	・「かしわざき学」における、地域との関わりを通して地域を愛する心を醸成する。 ・アントレプレナーシップの基礎づくりを行う。 ・関わる力、助け合う力を育成する。	・「柏崎を知る」をもとに年間を通して系統的に地域探究学習を行う。 ・自ら設定したテーマで、「調べ学習と体験」、「発信や提言」への学び方を学ぶ。 ・地域に出かけて地域で学ぶ学習を設定する。	A	
	２学年	・地域と関わる行事や学習に対して意欲的に取り組ませ、郷土の理解を深め、生き方と関わる力を付ける。 ・他と関わる力、助け合う力の育成する。	・主に、次の行事や学習に対して意欲的に取り組めるよう、事前指導を行う。「ＬＦＥ活動」「体育祭」「職場体験学習」「学年ＰＴＡ主催の福祉体験」「翔洋祭」「修学旅行」	A	
	３学年	・学校における学習活動以外の部活動や地域活動（スポーツや文化活動、ボランティア活動、行事に参加し、社会とともにある自覚をもった生徒を育成する。 ・生徒が充実した学校生活を送ることで、保護者へのＰＲを図る。	・「かしわざき学」に取り組み、広い見地から意見を収集し分析した上で、自分なりの主張をまとめ、地域に発信する力を育成する。 ・活動の記録や生徒の感想を掲載した学年だよりを、適宜発行する。	A	
	４学年	・かしわざき学の取組を通して、地域社会に貢献する。 ・自分たちの地域と日本や世界の様々な地域とを関連づけ、広い視野に立って地域の課題解決に取り組む姿勢を身につける。 ・地域への愛着や自己肯定感を高める。	・自分たちの地域ならではの特性や課題をふまえた視点で考察させる。 ・海外研修とその事前事後学習において、日本や世界との比較を行い、多様な視点から物事を考える機会を設ける。	A	
	５学年	・宿泊研修の際に、研修先と地元との共通点や差異等を意識した学習を行わせる。 ・アントレプレナーシップについて理解を深め、地域への愛着を基底にしながら、将来、地元に貢献できるための素地を育てる。	・宿泊研修において、震災遺構や訪問先の大学の見学を通じ、地元の特色、特徴について改めて認識できるように計画する。 ・かしわざき学で企業家精神について学び、視野を広げる。	A	
	６学年	これまでの「かしわざき学」などの成果を下級生に還元する活動を行い、地域社会や母校へ貢献しようとする意欲を高める。	他学年とともに実施する活動の時間を、例年実施されている学校行事や「かしわざき学」の活動以外にも４時間以上実施する。	A	
	国語科	地域文化の発展に貢献する態度を育成する。	競書大会や作文コンクール、「私の主張」など、地域主催の作品展やコンクールに積極的に参加（出品）する。	A	
	社会科	「かしわざき学」を授業や課題などでも積極的に扱い、地域連携・社会貢献および情報発信する能力を養う。	地域のことを調べ、社会貢献のあり方について考えさせる。	B	
	数学科	地域社会での数学的な事象に興味を持つ。	数学と実生活との結びつきを感じることができるような課題を取り扱う。	B	
	理科	理科を通じて、地域に学校を PR し、地域の特徴を理解する。	・科学研究発表会・作品展などに参加をする。 ・地域の植生や原子力などについての内容を扱う。	B	
	英語科	・地域を知り、学び、考えたことを、世界の人々と共有し、課題を解決しようとする力を育成する。 ・日本語を母語としない人に、自己の生活する地域や日本の文化紹介を行う。	・自己の考えや意見を英語で書いたり話したりできるように授業中の活動を工夫する。 ・地域や日本文化の紹介を英語でできるように、授業中の活動を工夫する。	A	
	保健体育科	長距離走の単元で、地域の人々に頑張って走る姿を示せるようにする。	・校地周辺にコースを設定し、生徒の走る姿を地域の人々の目に触れさせる。 ・生徒の頑張って走る姿が、地域の人々に元気を与えることにつながることを指導する。	A	
成果	・次年度以降を見据えた行事の在り方や生徒支援の方向性について議論を重ねることができた。今後も様々な変化に対応するための協力体制を強化していく必要がある。（生徒指導部） ・担任の、生徒一人一人に対する丁寧な教育相談や指導の結果、基本的な生活習慣や学習習慣が身についてきた。（１学年） ・学年委員会を運営する機会が少なく、自活的な活動まで進めることができなかった。今後は、善悪の判断を生徒自身が行い、よりよい行動ができる集団となるよう指導していく。（１学年） ・１年を通じて、欠席、遅刻、早退等が少なく、全員で日々の学習活動、学校行事に取り組むことができた。（４学年） ・新たに手帳を導入して、計画的に学習活動に取り組むことができ、基本的生活習慣を確立することができた。 ・海外研修旅行への事前学習、実際の研修、事後の振り返り活動を通じて、異文化に触れる機会を持つとともに、英語力に磨きをかけ、自分に自信を持てるようになった。（４学年） ・進研模試では、全体的に高い成果を上げ、進路意識を高めることができた。（４学年） ・次年度は全校のリーダー学年として、ともに活動する仲間と良好な関係を構築できる力を育成することが課題である。（４学年）			総合評価	
				A	